



S.Suzuki

新潟競馬場開設60周年記念 サマーマイルシリーズ

THE SEKIYA KINEN

第60回 関屋記念 (GⅢ)

本 賞 1 着 2 着 4 着 5 着
賞 41,000,000円 13,000,000円 6,200,000円 4,100,000円
付加賞 637,000円 137,000円 137,000円



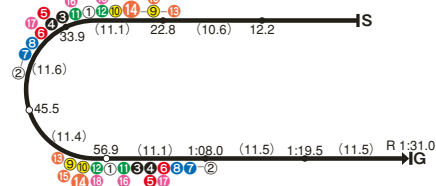
レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

3歳以上、2024.7.20以降2025.7.20まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

2025.7.27 新潟 晴・良 芝1600m (国際) (特種)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り 600m (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑭	カナテーブ	牝 6	54	R.キング	R1:31.0	15-14	32.5	482(-2)	4.4①	堀 宣行(美浦)	104
2	①	オフトレイル	牡 4	57.5	菅原明良	クビ	11-11	32.7	464(+4)	25.3⑩	吉村圭司(栗東)	110
3	⑪	ボンドガール	牝 4	56	C.ルメール	同着	9-9	32.8	456(±0)	5.4②	手塚貴久(美浦)	107
4	⑩	トランキリテ	牝 6	56	荻野 極	1¼	14-14	32.7	474(-4)	39.1⑪	松永幹夫(栗東)	104
5	⑧	シヴァース	牡 4	56	内田博幸	クビ	3-3	33.5	458(±0)	8.6④	友道康夫(美浦)	
6	⑥	ニシノスベニア	牝 6	56	大野拓弥	クビ	4-4	33.5	536(+8)	43.4⑫	上原博之(美浦)	
7	④	レガロデルシエロ	牡 4	56	戸崎圭太	クビ	6-6	33.4	526(+8)	9.0⑥	栗田 徹(美浦)	
8	⑨	メイショウシンタケ	牡 7	55	菊沢一樹	1½	12-12	33.2	488(-6)	96.1⑬	千田輝彦(栗東)	
9	⑫	フォーチュンタイム	牡 4	56.5	三浦皇成	クビ	9-9	33.4	502(-10)	6.5③	吉岡辰弥(栗東)	
10	②	シンフォーエバー	牡 3	53	江田照男	½	1-1	34.8	500(+10)	16.3⑨	森 秀行(栗東)	
11	⑮	イミグラントソング	牡 3	55	石川裕紀人	1¼	16-16	33.1	488(+4)	8.7⑤	辻 哲英(美浦)	
12	③	ジョウショーホープ	牡 5	56	西塚光二	クビ	8-8	33.8	480(±0)	236.5⑭	新功一(栗東)	
13	⑯	ダイシンヤマト	牡 5	56	吉田 豊	クビ	12-12	33.5	516(+10)	16.3⑨	戸田博文(美浦)	
14	⑦	キョウエイブリッサ	牡 5	55	丸田恭介	2	16-16	33.5	490(-2)	67.9⑫	武市康男(美浦)	
15	⑬	アルセナール	牝 4	53	杉原誠人	クビ	4-4	34.6	462(+4)	13.3⑦	木村哲也(美浦)	
16	⑬	ハクサンバード	牡 5	54	小崎駿也	½	2-2	34.8	486(+2)	44.3⑪	高橋一哉(栗東)	
17	⑬	リフレミング	牡 7	58	石橋 脩	1½	18-18	33.6	468(-6)	147.6⑮	藤野健太(栗東)	
18	⑤	ゴールデンシロップ	牡 7	54	原 優介	1¼	6-6	34.9	538(±0)	223.8⑯	鈴木慎太郎(美浦)	

単勝④440円(1¼) 複勝④170円(1¼) ①570円(10¼) ⑩220円(2¼) 枠連①-⑦890円(10¼) ⑥-⑦420円(2¼)
馬連①-④3,620円(32¼) ①-④760円(1¼) ワイド①-④2,000円(26¼) ①-④600円(1¼) ①-⑦2,610円(37¼)
馬単④-①5,940円(54¼) ④-①1,310円(2¼) 3連複①-④①12,750円(40¼)
3連単④-①①39,780円(265¼) ④-①①24,760円(143¼)
5重勝③⑤③⑦⑬264,040円(1,929票) 対象競走: 中京6R/新潟6R/札幌11R/中京7R/新潟7R



通過タイム: 600m 800m 1000m 上り: 800m 600m
33.9 - 45.5 - 56.9 45.5 - 34.1

アラカルト

- ・R.キング騎手は関屋記念初勝利。JRA重賞は本年4勝目、通算6勝目
- ・堀宣行調教師は関屋記念初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算79勝目。この勝利により史上7人目となる調教師によるJRA全10場重賞制覇を達成
- ・ロードカナロア産駒はJRA重賞通算88勝目
- ・6歳馬の勝利は20年サトノアーサーに続く通算10回目
- ・牝馬の勝利は23年アヴェラールに続く通算15回目
- ・勝ちタイム1:31.0は12年の本競走でドナウブルーが記録した1:31.5を0秒5更新するコースレコード
- ・枠連420円、馬連760円は各方式別における本競走の最低払戻金額

カナテープ *Kana Tape*

牝 鹿毛 2019.2.21生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・C.フィブケ氏 美浦・堀宣行厩舎
馬名意味・父名より+母名の一部

ティッカーテープGB系 F8-c

ロードカナロア 鹿毛 2008	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	レディブラッサム 鹿毛 1996	Storm Cat サルトガデーUSA
ティッカーテープGB Ticker Tape 鹿毛 2001	Royal Applause 鹿毛 1993	Waajib Flying Melody
		Silver Hawk
	Argent Du Bois 鹿毛 1996	Wiener Wald

5代までのインブリード：Mr.Pro prospector S4×M5 Terlingua S4×M5
Try My Best M4×S5 Northern Dancer S5×M5×M5

INTERVIEW

野崎孝仁 厩舎長（ノーザンファーム早来）

高い能力を感じていました

府中牝馬Sのレース内容を見て、牝馬限定の重賞ならばチャンスがあるのではないかと期待していました。ただ、関屋記念はメンバーが強いと思っていたので、1番人気の評価には驚きました。爪に問題があり、牧場時代だけでなく入厩してからもしっかりと進めてきた馬ですが、こちらにいた頃から高い能力を感じていました。それだけに重賞制覇は感慨深いです。

父ロードカナロア

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産 中央、香19戦13勝(香港スプリント^{G1}2回、安田記念^{G1}、スプリンターズS^{G1}2回、高松宮記念^{G1})、年度代表馬、最優秀短距離馬2回、14年から供用。20～24年日本リーディング2位〔代表産駒〕**アーモンドアイ**(ジャパンC^{G1}2回、ドバイターフ・首^{G1}、天皇賞(秋)^{G1}2回、牝馬三冠)、**サートゥルナーリア**(皐月賞^{G1}、ホープフルS^{G1})、**ダノンスマッシュ**(香港スプリント^{G1}、高松宮記念^{G1})、**ハンサラッサ**(ドバイターフ・首^{G1}、サウジC・沙^{G1})、**ベラジオオペラ**(大阪杯^{G1}2回)、**ステルヴィオ**(マイルチャンピオンシップ^{G1})、**サトノレヴ**(高松宮記念^{G1})、**ダノンスコーピオン**(NHKマイルC^{G1})、**ファストフォース**(高松宮記念^{G1})、**ブレイディヴェグ**(エリザベス女王杯^{G1})、他に重賞勝ち馬多数

母ティッカーテープGB

北米、英31戦8勝(クイーンエリザベス二世チャレンジャーC・米^{G1}、アメリカンオークス・米^{G1}、バックカーアップS・米^{G3}、トゥズラH・米L、プロヴィデンスアS・米L、チャイナドールS・米L、デルマーオークス・米^{G1}2着、サンゴルゴニオH・米^{G2}2着、ウィルシャーH・米^{G3}2着)、11年輸入、23年用途変更
ロイヤルディクリー Royal Decree(09 牝父Street Cry)北米2戦0勝、**ウォーディクリー** War Decree(ヴィンテージS・英^{G2}、ダイヤモンドS・愛^{G3})、**スキムズ** Skims(サンズポイントS・米^{G2})の母
レイズアップ Raise Up(10 牝父Henrythenavigator)北米2戦0勝、エンパイアマイスター Empremeister(オンタリオカウンティS・米3着)の母
エンプレスメーカー Empress Maker(11 牝父Empire Maker)北米13戦2勝、**トゥーファーマーイストイズウエスト** Toofareastiswest(ヒルプリンスS・米^{G2}3着)の母
ティッカーコード(12 牝父Giant's Causeway)持込 中央3戦0勝、オータムレッド(クローバー賞^{Gp})の母
オースオブゴールド(15 牝父オルフェール)中央7戦0勝
メイリパティ(17 牝父キズナ)中央6戦0勝
ヴィアレジジョ(18 牝父ハーツクライ)中央1戦0勝
カナテープ 本馬(19 牝父ロードカナロア)中央17戦5勝(関屋記念^{Gm}、初音S・t v k賞、府中牝馬S^{Gm}2着) 獲得総賞金142,912,000円
スカイロケット(20 牝父ジャスタウエイ)中央18戦4勝(山城S、三木特別)⑨
グランドマーシャル(21 牝父ワールドエース)地方13戦0勝
ネッカーズブルム(23 牝父フォーウィールドライブUSA)⑨
※08(報告なし)、13、14、16、22(不妊胎)



Photostud

レコードタイムで豪快な強襲を決める

新潟競馬場が現在地にオープンしてから60年目にあたる今年、発祥の地である関屋の名を冠したマイル重賞は従来の別定戦からハンデ戦に新装され、夏開催の開幕週に組まれた。ひと桁の単勝オッズを記録した馬が6頭を数え、ハンデ戦らしい混戦ムードに包まれたなか、1番人気に支持されたのは府中牝馬Sの2着馬カナテープ。遅咲きの素質を着々と開花させてきた6歳牝馬は、背負った期待に応えて豪快な強襲を決めた。

先手を奪った3歳馬シンフォーエバーは緩みのないラップを刻んでレースを先導。重賞2着5回の実績を持つ1勝馬ボンダールと、重賞初挑戦の阪

北米のオーナーブリーダー、C・フィブケ氏が2019年セレクトセール当歳市場で落札した本馬は、父ロードカナロア、母も米^{G1}2勝のティッカーテープという良血馬。4歳時の秋に2勝クラスを卒業した後は長い足踏みを続けたものの、今年2月の初音Sを鮮やかに差し切ると、府中牝馬Sの2着を挟んで初の重賞を掴み、管理する堀宣行調教師にJRA全10場重賞制覇の快挙も贈った。6歳牝馬の優勝はレース史上初めてだが、勝ちタイム1分31秒0は従来の記録を0秒5更新するレコード。上昇気流に乗った良血馬には、さらなる躍進も見込めそうだ。